

絶対得する**秘**テクニック

究極の 電話割引 サービス 活用術



このご時世、ダイアルアップの電話代もバカにならない。しかしあきらめることなかれ、割引サービスを使えば、アクセスポイントまでの電話料金を確実に安くできる。この記事を読めば、自分にピッタリの電話料金割引サービスが必ず見つかるはずだ！

塩田 紳二

Illustr: Hada Eiji



割引サービスを使えば 驚くほど安くなる

ダイヤルアップ接続のコストとして、プロバイダー料金とともに切り離せないのが「電話料金」だ。インターネットを使えば使うほど高くなると考えがちな電話料金だが、NTTが提供している割引サービスを上手に使うことで電話料金は確実に安くなる！まずは右の写真を見比べてほしい。

右の写真は、INSテレホーダイの「使用前」と「使用后」の料金を比べたものだ。自分に合った割引サービスを申し込むだけで、電話料金はこれほどまで安くできる。この例では1か月に9,492円節約できたことになり、これを1年で計算すると113,904円にもなるのだ。これだけ節約できるのなら見逃す手はない！

INSテレホーダイを使用しない場合

料金内訳名		金額(円)	税区分	ご利用期間等のお知
回線使用料・基本料(住宅用)	2,830	合算	11月21日-12月20日	
屋内配線使用料	60	合算	11月21日-12月20日	
番号案内料	50	合算	11月21日-12月20日	
(内訳)昼間・夜間ご利用分	(50)			1回のご利用です。
INS通話料	2,690	合算	11月21日-12月20日	
INS通信料	11,440	合算	11月21日-12月20日	
消費税相当額	851			
(内訳)消費税相当額(合算分)	(851)			合算表示の料金を合計した17,020円に5%を乗じて算出しています。
(合計)	17,871			

17,871円が

INSテレホーダイを使用した場合

料金内訳名		金額(円)	税区分	ご利用期間等のお知
回線使用料・基本料(住宅用)	2,830	合算	11月21日-12月20日	
屋内配線使用料	60	合算	11月21日-12月20日	
INS通話料	3,890	合算	11月21日-12月20日	
(内訳)INSテレホーダイ適用分	(1,200)			次回(来月分)の割引計算期間は、12月21日-1月20日です。
(基本料)INSテレホーダイ定額料	<1,200>			INSテレホーダイ2400をご利用にならなかった場合は0円となります。
(内訳)通常通話料適用分	(2,690)			INSテレホーダイの定額料は、ご利用に依らず通話料・通信料に半額づつ請求されます。
INS通信料	1,200	合算	11月21日-12月20日	
(内訳)INSテレホーダイ適用分	(1,200)			次回(来月分)の割引計算期間は、12月21日-1月20日です。
(基本料)INSテレホーダイ定額料	<1,200>			INSテレホーダイ2400をご利用にならなかった場合は11,440円となります。
(内訳)通常通話料適用分	(0)			INSテレホーダイの定額料は、ご利用に依らず通話料・通信料に半額づつ請求されます。
消費税相当額	399			
(内訳)消費税相当額(合算分)	(399)			合算表示の料金を合計した7,980円に5%を乗じて算出しています。
(合計)	8,379			

8,379円に!!

9,492円もお得!!

下の写真は、上の写真と同じ利用時間において、すべての通信をINSテレホーダイの適用時間に行ったときの料金をシミュレートしたものです。

割引サービスを使ってみよう!

インターネットといえばテレホーダイが有名だが、割引サービスには一般ユーザーが利用できるものだけでもアナログで7つ、ISDNでも4つある。基本的には、どのサービスにも対象となる割引の条件があり、その条件を満たした通話の電話料金が割引になる。たとえばテレホーダイでは、23時から翌朝8時までのあらかじめ指定した2つの電話番号への通話が割引(一定額)になる。

こうした割引サービスを活用するためには、通話記録を活用するとよい。NTTのサービスにすべての通話記録を1か月ごとに送付する「料金明細内訳サービス」というものがあり、1か月間の通話が完全に記録されている。この中から、インターネット接

続を探して利用のパターン(時間帯、平均接続時間、1か月の接続回数)を判定する。できれば、何か月かを通して見るとより正確になるだろう。

「こんな計算は面倒!」という読者のために、今回は、簡単な質問に答えるだけで自分の接続パターンが判定でき、最適な割引サービスがわかる早見表を作成した。もちろん、より正確に知りたいという読者のためには、平均接続時間と1か月の接続回数から判定できるグラフも用意した。

この記事は大きく「NTT回線」と「移動体通信」に分かれており、前者はプロバイダーのアクセスポイントの場所から「ISDN市内」、「アナログ市内」、「ISDN隣

接区域」、「アナログ隣接区域」の4つに分けてある。

移動体通信については、携帯電話(デジタル方式のみ)とPHS編に分かれている。移動体通信では、1つの事業者でもさまざまな契約形態や割引サービスがあるため、こちらはチャートから判定した利用パターンごとの最適な利用方法を求める表を作成した。

今回は比較的最近スタートしたINSタイムプラスなどの情報も盛り込んでいるので、これまで割引サービスを使ったことのない人はもちろんだが、テレホーダイしか使ったことがないといった人にも、自分に合った割引サービス選択の手引きになるはずだ。

電話料金の謎を解け!

ただ申し込むだけでは安くならない

「度数」「エリア」「時間帯」がポイント

NTTの電話料金は、「時間帯」「相手先との距離区分」によって、料金計算の単位時間が決まる。通話料金は、通話時間がこの単位時間をいくつ含むか(これを度数という)で計算され、基本的には1度数が10円となっており、端数は切り上げ計算になる。

たとえば、平日の昼間に4分の市内通話を行うと、この時間帯は180秒/1度数となり、
 $240\text{秒}/180\text{秒} = 1.3 = 2\text{度数}$
 の通話で料金は20円となる。このような計算を行うため、利用時間に関しては、電話料金は右のような階段状のグラフとなる。

NTTでは、個々の回線を管理するエリアが設定されており、そのエリア内の通話を市内通話と呼ぶ。これ以外の通話はすべて市外通話扱いになる。また、電話機の設置場所を含むエリアに隣り合うエリアを隣接区域と呼ぶ。

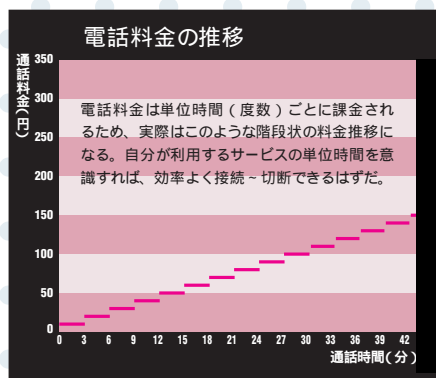
割引サービスを使っても損をすることがある?

NTTの各種割引サービスは一定額の料金が毎月必要となる。このため、どの割引サービスにも実際に電話料金削減の効果が現れ始めるポイント(採算点)がある。ひと月の通話料や通話パターン(時間帯や相手先との距離、通話時間)によっては、割引サービスのメリットがなく、かえって料金が割高になる可能性もある。

NTTの各種の割引サービスには、最終的な料金に対して割引計算を行うもの、個々の通話の単位時間を延長するもの、一定額の支払いで、指定通話の料金が支払われるものの3種類がある。翌月などにその分を繰り越すことはできない。このパターンには、テレチョイス/INSテレチョイス、テレワイズなどがある。たとえばテレチョイスは、割引対象としたい通話先の市外局番を指定すると、そこへの市外通話がすべて割引(最大30%)になるものである。このタイプでは、最終的な合計額が割引になるので、1度数の通話であっても、割引対象通話であれば、毎月340度数(340円)以上

NTTの料金区分では、隣接区域または20km以内の場所への通話がグループ化されており、以後30km以内、40km、.....160km以上と、通常の電話における市外通話の料金区分は距離に応じて5段階に分けられる。

また時間帯では、平日は午後11時から翌朝8時までが「深夜・早朝」時間とされており、この時間帯は1度数でかけられる時間が日よりも長くなっている。



(アナログの場合、ISDNでは670度数)あれば、電話料金削減の効果が出る。

のパターンは、エリアプラスやタイムプラスといったサービスで、たとえばINSタイムプラスの場合は、通常3分10円の市内通話が5分10円に延長される。こうしたサービスの採算点は非常に微妙で、INSタイムプラスの場合、10分の通話(2度数)は18回で通常より割引となるが、11分(3度数)の通話で通常料金より安くなるには35回の通話が必要になる。また5分以上6分未満の通話においては、5分10円でも3分10円でも20円(2度数)となるため、何回かけても採算点に達することがない。

のパターンに属するものは、テレホーダイやテレジョーズなどがある。前者は、あらかじめ登録した2か所への通話が深夜・早朝は一定額になるものだ。テレジョーズにはいくつかの種類があり、そのうちの「テレジョーズ2000」では、1750円の支払いで2000円分の通話ができる。しかし、割引対象は平日の夜10時から翌朝8時、土日、祝日は終日となっている。

このように、実際に割引サービスを利用するには、通話時間の合計だけでなく、1回の通話時間や通話回数を加味した自分の「利用パターン」が重要なことがわかるはずだ。



利用パターンで サービスを決め打ち!

どのくらい使うかと聞かれても.....

【細かい計算は面倒だ】

割引サービスを有効に利用するには、自分がいつどのくらい使うかといった利用パターンを把握する必要がある。自分のインターネット利用時間がはっきりとわかって

いる人は問題ないが、「利用時間など計算したことがない。そんな面倒だ」という人もいるだろう。そこで、自分の利用パターンを簡単に見つけられるチャートを用意した。日中・夜間(朝8時から夜11時まで)と深夜・早朝(夜11時から朝8時まで)に分けて、それぞれの時間帯のチャー

トで質問に答えて自分のタイプを探そう。その時間帯にはインターネットをまったく使わないという人は「ほとんど使わない」を選ばほしい。さらに、この結果を次ページ以降の早見表にあてはめれば、自分に合った割引サービスが簡単にわかってしまうのだ。

日中・夜間(8時~23時)はこう使う

使い方は?

メールもウェブも

毎日使う? 毎日使わない

毎日使う 1週間に4日は使う? 1週間に4日は使う?

使う 使わない 使う 使わない

A 熱中している

毎日1時間以上はインターネットを使う。「インターネット中毒」一歩手前の、インターネットにハマったという状態。

***このタイプの利用例**

接続時間: 60分以上
アクセス回数: 7回/週=30回/月
合計利用時間: 1800分/月

B よく使う

1時間の接続を週に4回程度行う。平日のほとんどの日(使わない日もたまにある)にウェブを見て回る程度の使い方。

***このタイプの利用例**

接続時間: 60分程度
アクセス回数: 4回/週=18回/月
合計利用時間: 1080分/月

C まあまあ使う

週に3回くらい30分程度のアクセス。平日の1日置きにメールをチェックしてウェブを見る程度。

***このタイプの利用例**

接続時間: 30分以上
アクセス回数: 3回/週=14回/月
合計利用時間: 420分/月

D ちょっと使う

数十通のメールチェックを毎日行う程度。

***このタイプの利用例**

接続時間: 5分
アクセス回数: 7回/週=30回/月
合計利用時間: 150分/月

E ほとんど使わない

ウェブめぐりはもっぱら会社で。家では数通のメールチェックを週に3回以下行うのみ。

***このタイプの利用例**

接続時間: 5分以上
アクセス回数: 3回/週=14回/月
合計利用時間: 70分/月

タイプが決まったら空欄にA~Eを記入しよう!

↓

日中・夜間のあなたは

[空欄]

タイプです

深夜・早朝(23時~8時)はこう使う

使い方は?

メールもウェブも

毎日使う? 毎日使わない

毎日使う 1週間に4日は使う? 1週間に4日は使う?

使う 使わない 使う 使わない

A 熱中している

深夜を中心に、毎日1時間以上はインターネットに接続。チャットやオンラインゲームなどを毎日一生懸命やるような人。

***このタイプの利用例**

接続時間: 60分以上
アクセス回数: 7回/週=30回/月
合計利用時間: 1800分/月

B よく使う

1時間の接続を週に4回程度行う。帰宅すればほとんど毎日ウェブを見るが、たまにインターネットに接続しないこともある。

***このタイプの利用例**

接続時間: 60分程度
アクセス回数: 4回/週=18回/月
合計利用時間: 1080分/月

C まあまあ使う

週に3回くらい30分程度のアクセス。1日置きにメールをチェックしてウェブもざらっと見る程度。

***このタイプの利用例**

接続時間: 30分以上
アクセス回数: 3回/週=14回/月
合計利用時間: 420分/月

D ちょっと使う

数十通のメールチェックを毎日行う程度。

***このタイプの利用例**

接続時間: 5分
アクセス回数: 7回/週=30回/月
合計利用時間: 150分/月

E ほとんど使わない

家に帰ってまではとてもインターネットをやる気力がない。メールのチェックを週に3回以下行う程度。

***このタイプの利用例**

接続時間: 5分以上
アクセス回数: 3回/週=14回/月
合計利用時間: 70分/月

タイプが決まったら空欄にA~Eを記入しよう!

↓

深夜・早朝のあなたは

[空欄]

タイプです

ISDNでアクセスポイントが
市内通話区域にある場合

ISDN 市内区域を徹底攻略!

INSタイムプラスとINSテレホーダイの境目がポイント

利用パターンで 手軽に選びたい

193ページのチャートで利用パターンを
チェックしたら、下の表で自分のタイプに合っ
た割引サービスを選んでみよう。選び方はい
たって簡単だ。日中・夜間のタイプを横軸で

選び、深夜・早朝は縦軸で選んで交差する
ポイントをチェックするだけだ。そこにある
のが、自分のタイプにあった割引サービスだ。
こうして見ると、ISDNの市内通話区域
では、INSタイムプラスがお得になるケース
が多いのがよくわかる。また、深夜・早朝
に「熱中している」(Aタイプ)ユーザーで、

日中・夜間の利用頻度が高い場合にはINS
テレホーダイとINSタイムプラスの併用が有
効になる。

また、「なにもしない」のがお得なケース
が4パターンあるのも見逃さない。このタイ
プでは割引サービスを使わないほうがいいこ
とになる。

	A 熱中している 	B よく使う 	C まあまあ使う 	D ちょっと使う 	E ほとんど使わない 
A 熱中している 	INSタイムプラス+ INSテレホーダイ ①1390円お得	INSタイムプラス+ INSテレホーダイ ①1390円お得	INSタイムプラス+ INSテレホーダイ ①510円お得	INSテレホーダイ ①300円お得	INSテレホーダイ ①300円お得
B よく使う 	INSタイムプラス ①2170円お得	INSタイムプラス ①2170円お得	INSタイムプラス ①1290円お得	INSタイムプラス ①1030円お得	INSタイムプラス ①870円お得
C まあまあ使う 	INSタイムプラス ①1510円お得	INSタイムプラス ①1510円お得	INSタイムプラス ①630円お得	INSタイムプラス ①370円お得	INSタイムプラス ①210円お得
D ちょっと使う 	INSタイムプラス ①1390円お得	INSタイムプラス ①1390円お得	INSタイムプラス ①510円お得	なにもしない	なにもしない
E ほとんど使わない 	INSタイムプラス ①1230円お得	INSタイムプラス ①1230円お得	INSタイムプラス ①350円お得	なにもしない	なにもしない

表中の金額は193ページのタイプごとの例で計算したときの割引額

もっとこだわって 厳密に選びたい

日中・夜間と深夜・早朝で、それぞれ自
分のインターネット利用時間がはっきりわ
かっている場合は、右ページを見れば必ず
お得な割引サービスが見つかる。右図では
横軸が1日の接続時間を示す。縦軸は「横
軸を何回繰り返すか」の頻度で、最大で30
回(30日=1か月)となっている。たとえ

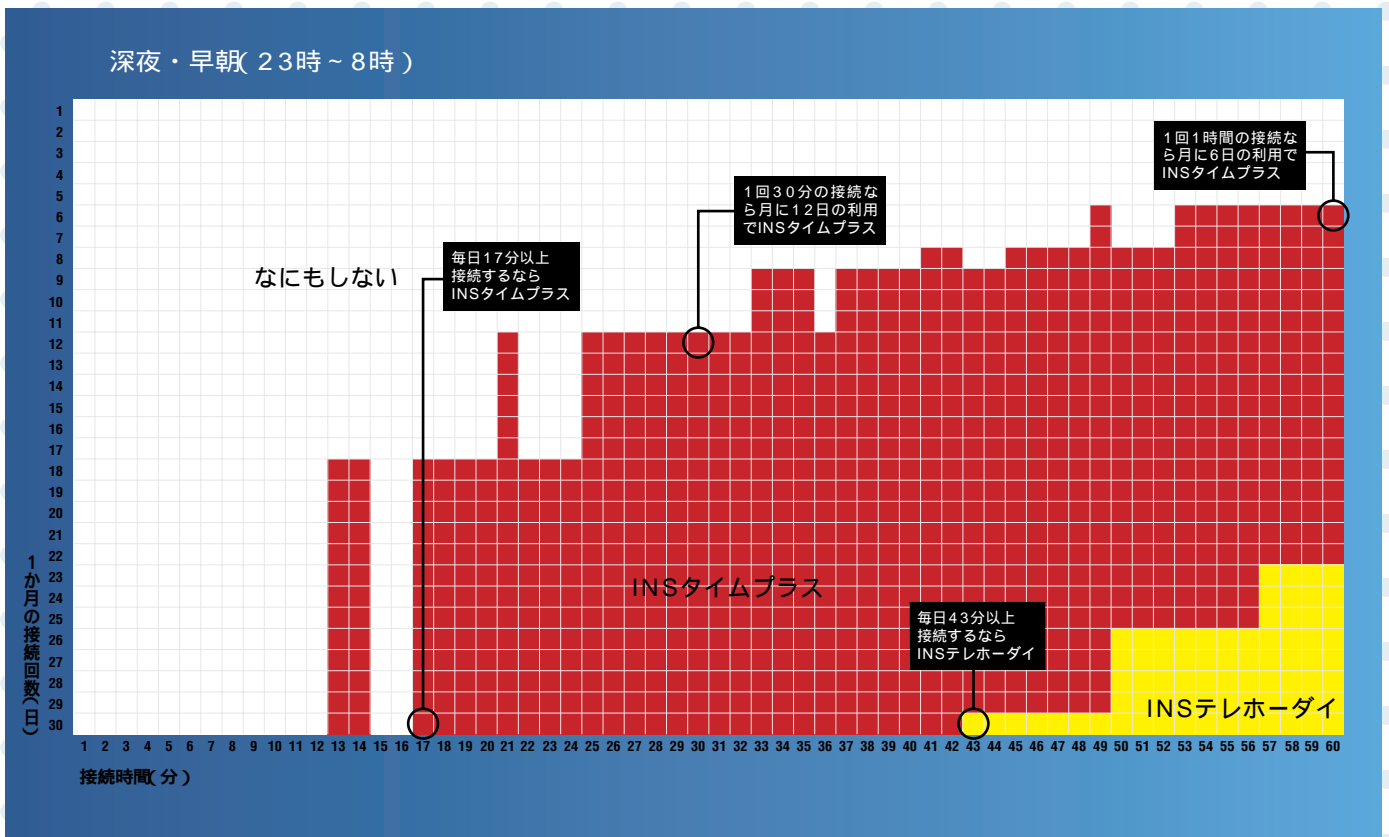
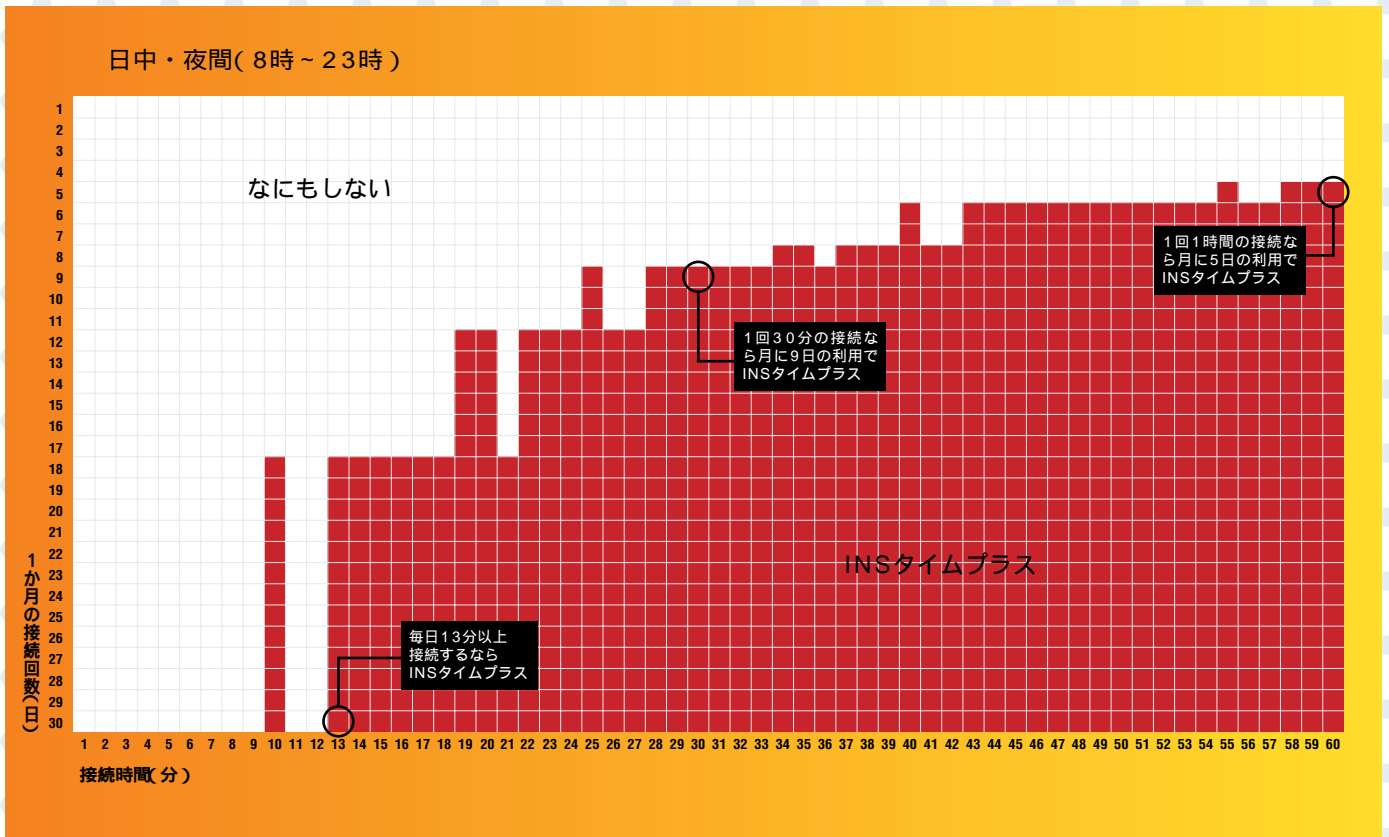
ば「1回50分の接続を1か月に20日」の
場合は、横軸は「50分」を、縦軸は「20
日」を選んで交差するポイントをチェッ
クする。この場合はINSタイムプラスが一番
お得なサービスであることがわかる。

ISDNで接続先が市内にある場合に利用
できる割引サービスは、INSタイムプラスと
INSテレホーダイの2つだ。前者は終日有
効なサービスだが、後者は深夜・早朝時
間だけ有効なサービスになる。ポイントとして

は夜間の利用が多い場合にINSテレホー
ダイが有効かどうかと、昼間にどの程度ア
クセスの必要があるかだ。1回12分以下のア
クセスではタイムプラスがお得でない領域が
多いので、昼間のメールチェックのみとい
った使い方では「なにもしない」ほうがい
いことがある。右ページを見てわかるよう
に、多くの人が使っているINSテレホー
ダイは、深夜・早朝にある程度(毎日なら43
分)以上使わないとお得にならない。

ISDN市内区域で得するサービス

名称	内容	対象通話	適用時間帯	月額料金	申し込み
INSタイムプラス	市内通話が10円/5分 (深夜・早朝は10円/7分)	市内通話	終日	350円	http://info.ntt.co.jp/shop/ 0120-378160
INSテレホーダイ (住宅用、市内プラン)	登録した2か所への通話が定額料金	あらかじめ登録した2か所への市内通話	23時から翌8時まで	2,400円	



ISDNでアクセスポイントが隣接通話区域にある場合

ISDN 隣接区域を徹底攻略!

INSテレチョイス30をどう生かすかがポイント

利用パターンで手軽に選びたい

ISDNの隣接通話区域では、何といてもINSエアプラスの利用価値が高い。下の表を見ると、ほとんどのケースでINSエアプラスが選択されているのがわかるだろう。その中で、深夜・早朝に「熱中してい

る」ユーザーは、日中・夜間に「ほとんど使わない」ケースを除いて、INSテレホーダイとの併用が有効になる。

INSテレチョイス30は、右ページを見てもわかるように有効になる接続時間と接続回数が少なく、接続し過ぎるとINSエアプラスのほうが割引率が高くなることが多い。

また、「なにもしない」が一番お得なケース

は少なく、日中・夜間、深夜・早朝ともに「ほとんど使わない(Eタイプ)」という場合だけだ。つまり、ISDNの隣接区域の場合では、ほとんどのユーザーが割引サービスの恩恵を受けることができるというわけだ。

193ページのチャートの結果をもとに、自分のタイプに適した割引サービスを選んでみよう。

	A 熱中している 	B よく使う 	C まあまあ使う 	D ちょっと使う 	E ほとんど使わない 
A 熱中している 	INSエアプラス+ INSテレホーダイ ①3850円お得	INSエアプラス+ INSテレホーダイ ①3850円お得	INSエアプラス+ INSテレホーダイ ①1650円お得	INSエアプラス+ INSテレホーダイ ①850円お得	INSテレホーダイ ①600円お得
B よく使う 	INSエアプラス ①5950円お得	INSエアプラス ①5950円お得	INSエアプラス ①3750円お得	INSエアプラス ①2950円お得	INSエアプラス ①2630円お得
C まあまあ使う 	INSエアプラス ①4230円お得	INSエアプラス ①4230円お得	INSエアプラス ①2030円お得	INSエアプラス ①1230円お得	INSエアプラス ①910円お得
D ちょっと使う 	INSエアプラス ①3550円お得	INSエアプラス ①3550円お得	INSエアプラス ①1350円お得	INSエアプラス ①550円お得	INSテレチョイス30 ①238円お得
E ほとんど使わない 	INSエアプラス ①3390円お得	INSエアプラス ①3390円お得	INSエアプラス ①1190円お得	INSエアプラス ①390円お得	なにもしない

表中の金額は193ページのタイプごとの例で計算したときの割引額

もっとこだわって厳密に選びたい

右のページは、ISDNの隣接通話区域にダイヤルアップする場合の、利用時間帯ごとのお得な割引サービス一覧表だ。図の見方は、横軸が1日の接続時間、縦軸がその回数になっている。たとえば「1回30分の

接続を2日に一度行う」とすると、横軸は「30分」、縦軸は「15日」(2日に一度)を見ることになる。こうすると、この場合は「INSエアプラス」が一番お得になることがわかる。

ISDNの市外通話の特徴は、INSテレチョイスが利用できるようになることだ。これは、接続先の市外局番を指定するものだが、

プロバイダーのアクセスなどには有利だろう。ただ、1回の接続時間が長く、通話回数も多い場合にはエアプラスのほうが有利になってくる。このため、テレチョイスの有効な領域は「なにもしない」とエアプラスにはさまれて複雑なパターンとなってしまう。

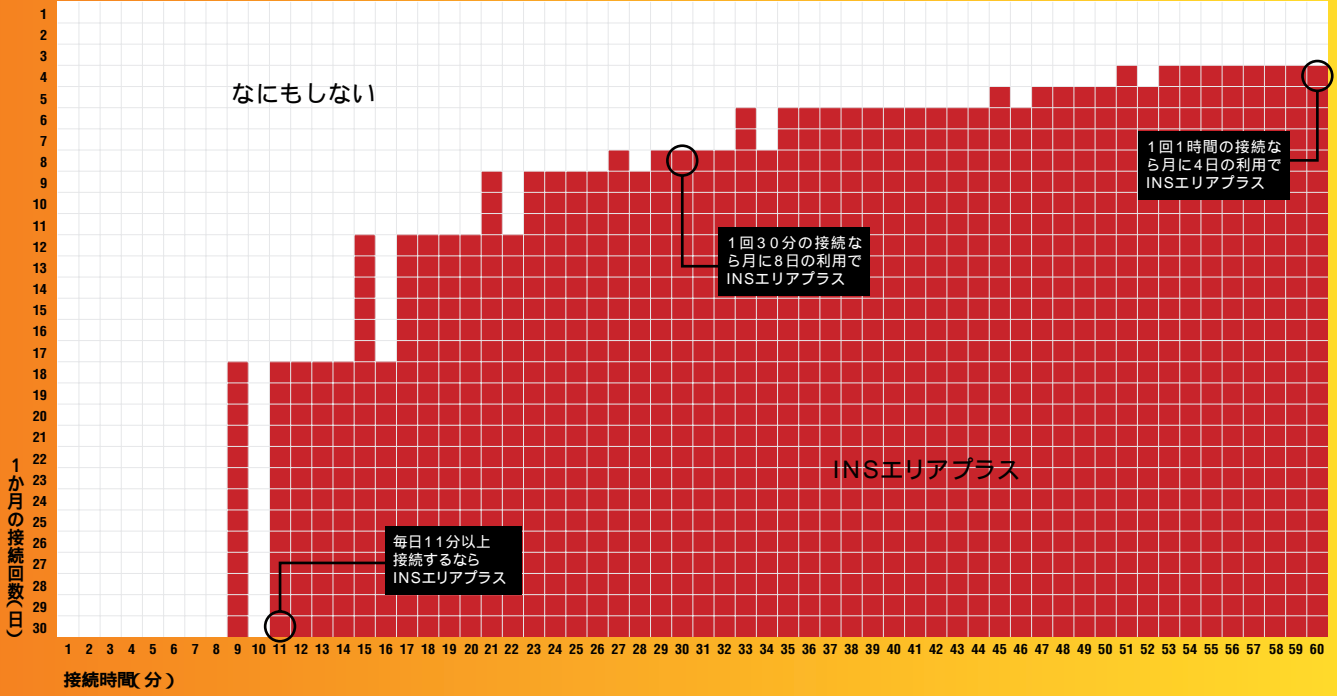
ISDN隣接通話区域で得するサービス

名称	内容	対象通話	適用時間帯	月額料金	申し込み
INSエアプラス	隣接・20kmまでの通話が10円/3分	隣接区域への通話	終日(深夜・早朝は10円/4分)	350円	http://info.ntt.co.jp/shop/ 0120-494933
INSテレチョイス30	指定2か所への市外通話が30%割引	あらかじめ登録した2つの市外局番宛通話	終日	200円	
INSテレチョイス15	指定10か所への市外通話が15%割引	あらかじめ登録した10の市外局番宛通話	終日	400円	
INSテレチョイス10	指定4か所への市外通話が10%割引	あらかじめ登録した4つの市外局番宛通話	終日	200円	
INSテレホーダイ	指定した2か所への通話が定額料金	あらかじめ登録した2か所への隣接市外通話	23時から翌8時まで	4,800円	

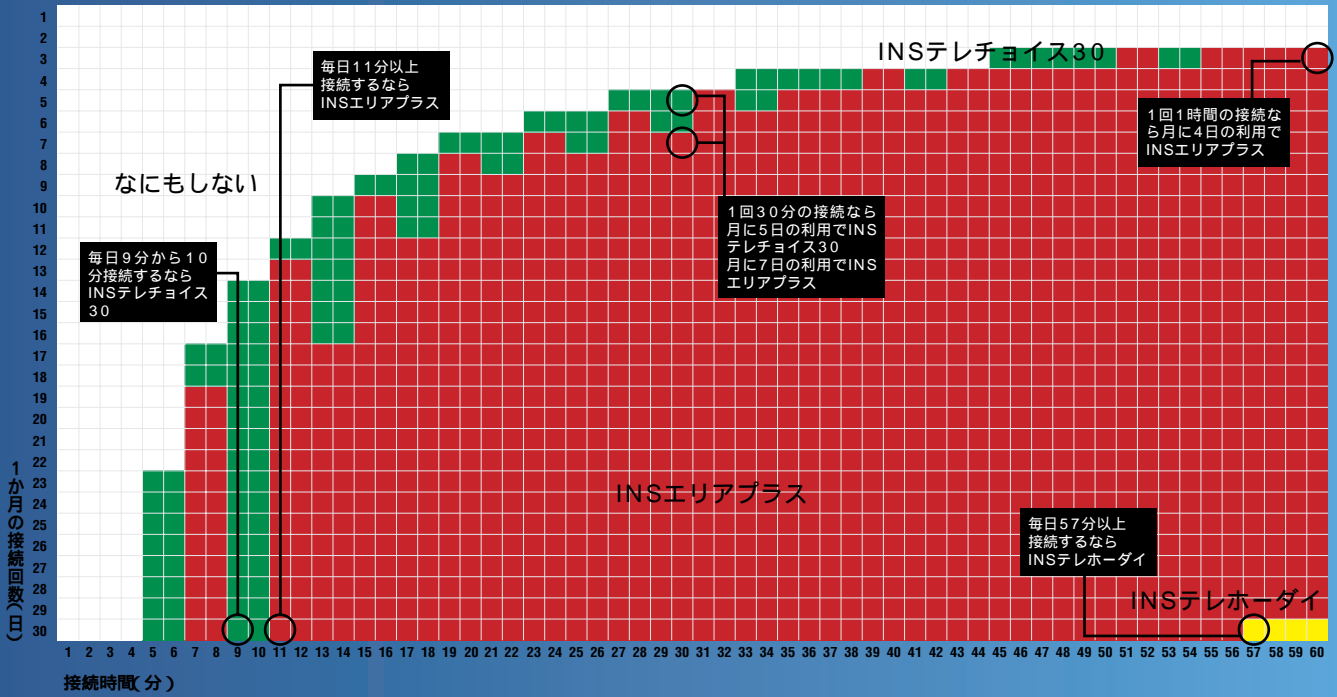
INSテレホーダイは住宅用、隣接プラン



日中・夜間(8時~23時)



深夜・早朝(23時~8時)



アナログでアクセスポイントが
市内通話区域にある場合

アナログ市内区域を徹底攻略!

タイムプラス+テレホーダイ1800が効果的

利用パターンで
手軽に選びたい

アナログの市内区域でもタイムプラスの利用価値が高い。それに加えて、深夜・早朝の利用頻度によってはテレホーダイ1800

と組み合わせるのが有効だ。アナログのテレホーダイはINSテレホーダイと比べて月額基本料金が安いので、割引が有効になる範囲が広がる。ここでは、深夜・早朝がBタイプ以上であれば、日中・夜間がAタイプの場合を除いてタイムプラスとテレホーダ

イ1800の併用が有利になる。

この表を使って自分の利用パターンをチェックするには、193ページのチャートを使って自分のタイプを選んでみよう。日中・夜間と、深夜・早朝でそれぞれ選んだ自分のタイプを組み合わせるだけでOKだ。

	A 熱中している	B よく使う	C まあまあ使う	D ちょっと使う	E ほとんど使わない
A 熱中している	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①2140円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①2140円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①1260円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①900円お得	テレホーダイ1800 ①900円お得
B よく使う	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①2140円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①2140円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①1260円お得	タイムプラス+ テレホーダイ1800 ①900円お得	タイムプラス ①1020円お得
C まあまあ使う	タイムプラス ①1660円お得	INSタイムプラス+ INSテレホーダイ ①1390円お得	タイムプラス ①720円お得	タイムプラス ①520円お得	タイムプラス ①360円お得
D ちょっと使う	タイムプラス ①1540円お得	タイムプラス ①1540円お得	タイムプラス ①660円お得	タイムプラス ①400円お得	タイムプラス ①240円お得
E ほとんど使わない	タイムプラス ①1380円お得	タイムプラス ①1380円お得	タイムプラス ①500円お得	タイムプラス ①240円お得	なにもしない

表中の金額は193ページのタイプごとの例で計算したときの割引額

もっとこだわって
厳密に選びたい

アナログの市内通話における割引サービスの選択方法を右ページに図示した。これは、接続時間と接続回数をもとに一番お得なサービスを示したものだ。横軸は「1日の

接続時間」、縦軸は「1日の接続時間(横軸)を何回(何日)繰り返すか」になっている。

アナログ契約で市内のアクセスポイントにダイヤルアップしている場合に有効な割引サービスは、タイムプラスとテレホーダイ、それにテレジョーズがある。テレジョーズは平日の夜(10時から翌朝8時まで)と土

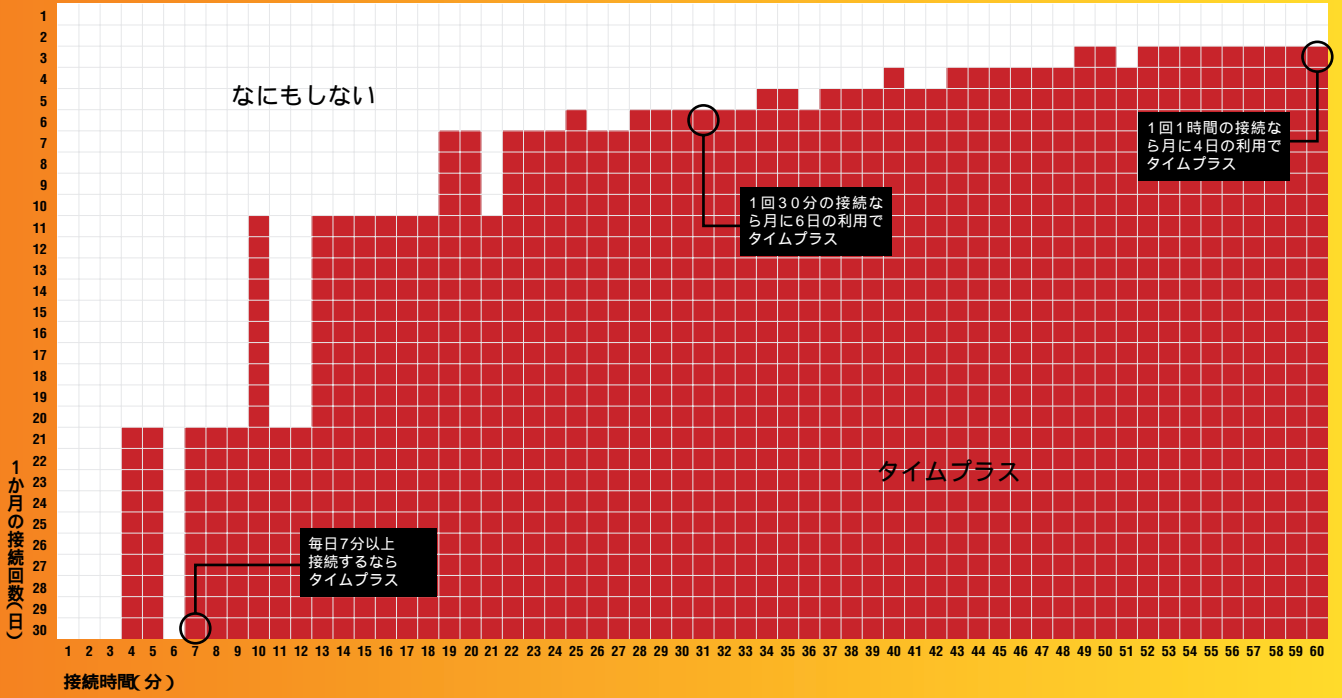
日、祝日のみ有効なので、土日のアクセスが中心でないと効果は出ない。実際に割引率もそれほど大きくなく、定額制で毎月の利用料金が一定の範囲内に納まらないと使にくいサービスでもある。そのため、現実的にはタイムプラスとテレホーダイが実用的なサービスだということがわかるだろう。

アナログ市内区域で得するサービス

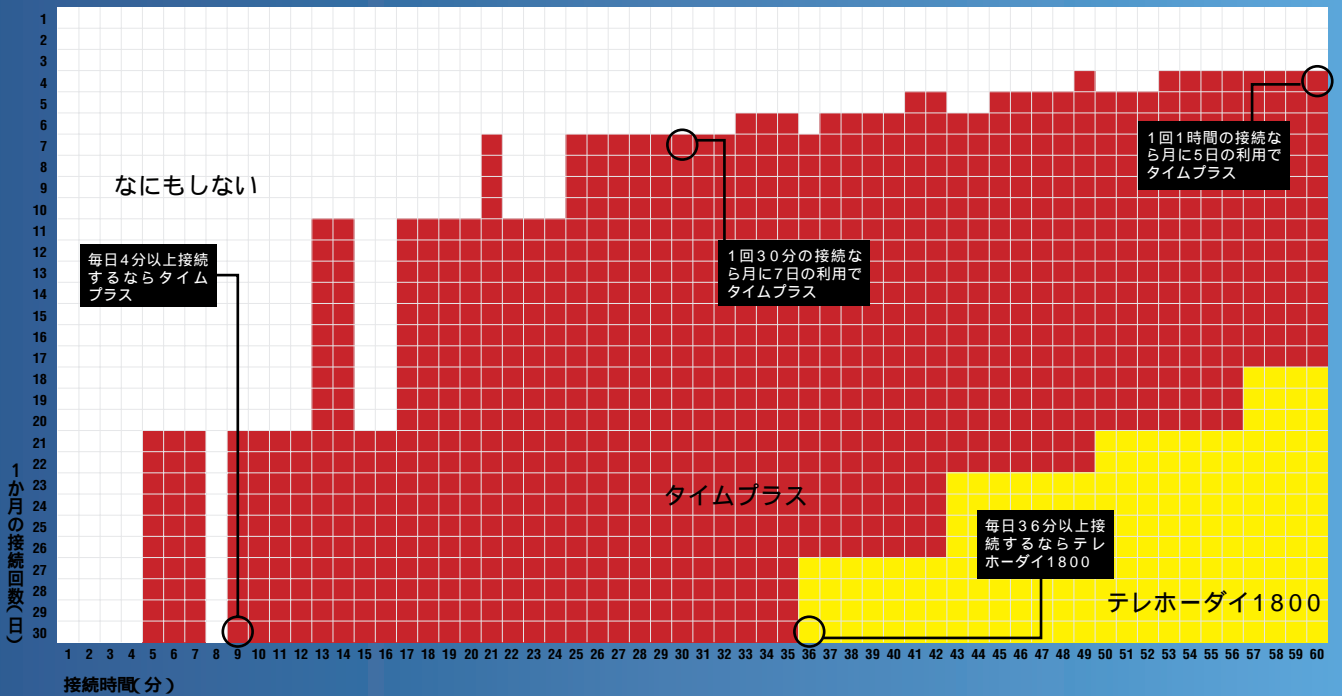
名称	内容	対象通話	適用時間帯	月額料金	申し込み
タイムプラス	市内通話が10円/5分	市内通話	終日(深夜・早朝は10円/7分)	200円	http://info.ntt.co.jp/shop/ 0120-378160
テレホーダイ1800	登録した2か所への通話が定額料金	あらかじめ登録した2か所への市内通話	23時から翌8時まで	1,800円	
テレジョーズ2000	1,750円の支払いで2,000円分の通話、3,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	1,750円	
テレジョーズ3000	2,600円の支払いで3,000円分の通話、5,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	2,600円	
テレジョーズ5000	4,300円の支払いで5,000円分の通話、8,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	4,300円	
テレジョーズ8000	6,850円の支払いで8,000円分の通話、以後は15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	6,850円	



日中・夜間(8時~23時)



深夜・早朝(23時~8時)



アナログでアクセスポイントが隣接通話区域にある場合

アナログ隣接区域を徹底攻略!

テレホーダイ3600の採算点は意外と高い

利用パターンで手軽に選びたい

アナログの隣接区域でも、ISDNの場合と同じくエリアプラスは便利だ。テレホー

ダイ3600は月額の基本料金が高いため、深夜・早朝に「熱中している」(Aタイプ)場合しか有効にならない。また、ここでは「なにもしない」が見当たらないが、右ページを見ればわかるように、実際には「なに

もしない」のが一番お得なこともある。これは、ここでは193ページの例をもとに料金計算を行ったためだ。193ページのチャートの結果から自分に合った割引サービスを選んでみよう。

	A 熱中している 	B よく使う 	C まあまあ使う 	D ちょっと使う 	E ほとんど使わない 
A 熱中している 	エリアプラス+ テレホーダイ3600 ①5050円お得	エリアプラス+ テレホーダイ3600 ①5050円お得	エリアプラス+ テレホーダイ3600 ①2850円お得	エリアプラス+ テレホーダイ3600 ①2050円お得	エリアプラス+ テレホーダイ3600 ①1730円お得
B よく使う 	エリアプラス ①5950円お得	エリアプラス ①5950円お得	エリアプラス ①3750円お得	エリアプラス ①2950円お得	エリアプラス ①2630円お得
C まあまあ使う 	エリアプラス ①4230円お得	エリアプラス ①4230円お得	エリアプラス ①2030円お得	エリアプラス ①1230円お得	エリアプラス ①910円お得
D ちょっと使う 	エリアプラス ①3550円お得	エリアプラス ①3550円お得	エリアプラス ①1350円お得	エリアプラス ①550円お得	エリアプラス ①230円お得
E ほとんど使わない 	エリアプラス ①3390円お得	エリアプラス ①3390円お得	エリアプラス ①1190円お得	エリアプラス ①390円お得	エリアプラス ①70円お得

表中の金額は193ページのタイプごとの例で計算したときの割引額

もっとこだわって厳密に選びたい

アナログの隣接市外通話は割引サービスの種類が多く、この中から自分に適したサ

ービスを選ぶのは難しいだろう。しかし、割引率ではテレチョイスが最大30%であり、やはりエリアプラスよりも低くなっている。接続先番号が制限される以外、テレワイスよりテレチョイスが有利であり、結局エリ

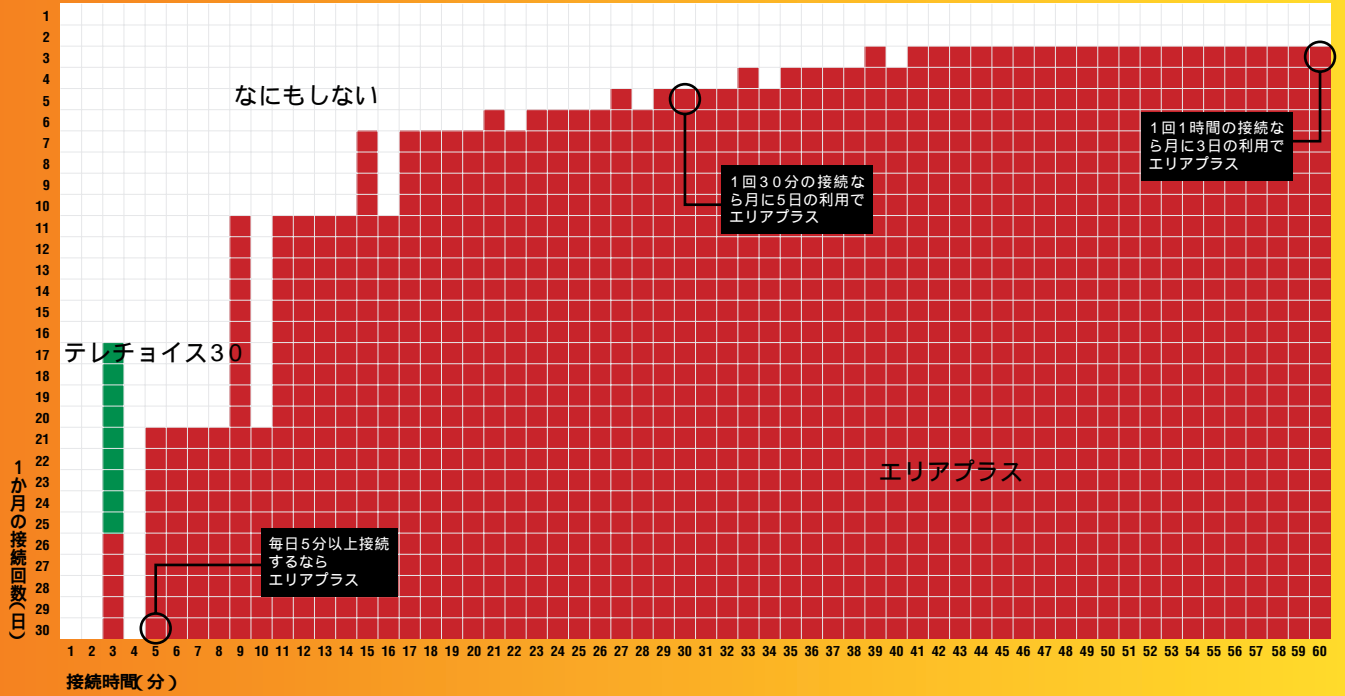
アプラス、テレホーダイ3600、テレチョイス30のどれかからサービスを選択することになる。自分の利用時間をしっかりと把握している人は、右ページを参考にお得な割引サービスを選択するといいたいだろう。

アナログ隣接通話区域で得するサービス

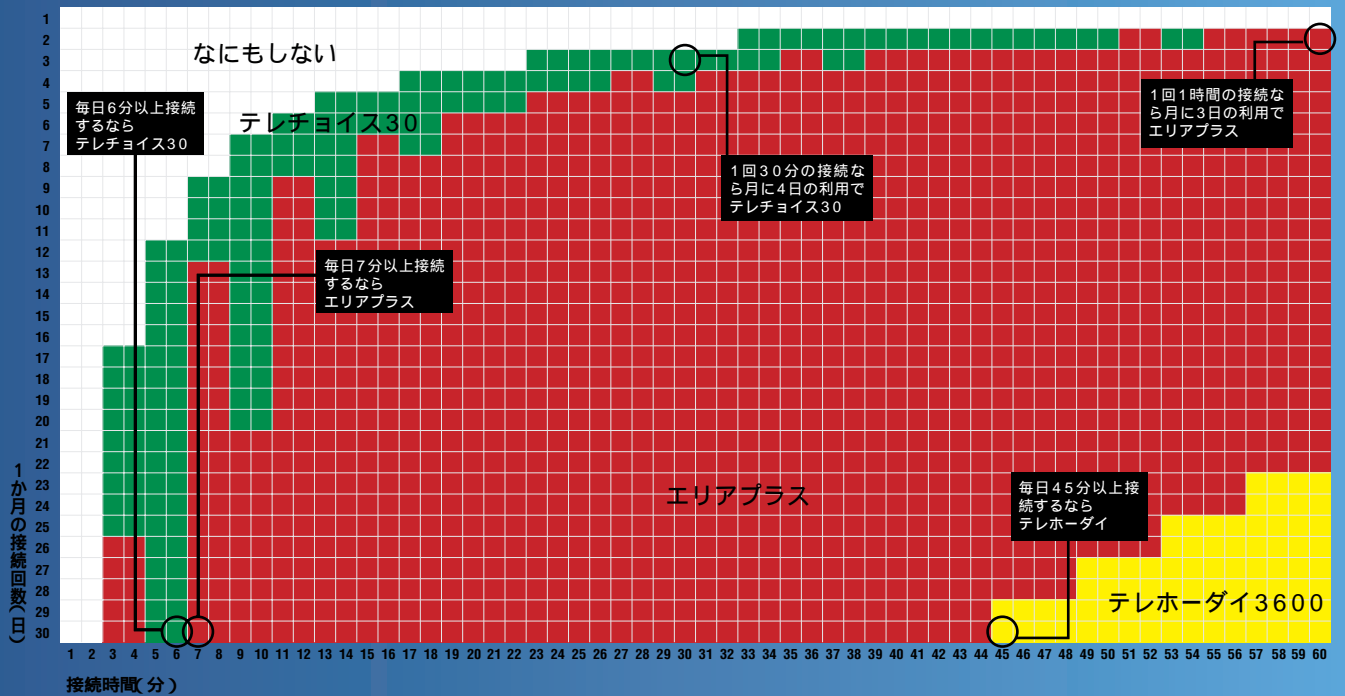
名称	内容	対象通話	適用時間帯	月額料金	申し込み
エリアプラス	隣接区域への通話が10円/3分	隣接区域への通話	終日(深夜・早朝は10円/4分)	200円	http://info.ntt.co.jp/shop/0120-378160
テレホーダイ3600	登録した2か所への通話が定額料金	あらかじめ登録した指定2か所への隣接市外通話	23時から翌8時まで	3,600円	
テレジョーズ2000	1750円の支払いで2,000円分の通話、3,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	1,750円	
テレジョーズ3000	2,600円の支払いで3,000円分の通話、5,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	2,600円	
テレジョーズ5000	4,300円の支払いで5,000円分の通話、8,000円までは15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	4,300円	
テレジョーズ8000	6,850円の支払いで8,000円分の通話、以後は15%引き	市内、市外通話	平日22時～翌朝8時、 土日祝日は終日	6,850円	
テレチョイス30	指定1か所への市外通話が30%割引	あらかじめ登録した1つの市外局番への通話	終日	100円	
テレチョイス15	指定5か所への市外通話が15%割引	あらかじめ登録した5つの市外局番への通話	終日	200円	
テレチョイス10	指定2か所への市外通話が10%割引	あらかじめ登録した2つの市外局番への通話	終日	100円	
テレワイス10	市外通話料金が10%割引	市外通話	終日	550円	
テレワイス15	市外通話料金が15%割引	市外通話	終日	1,550円	



日中・夜間(8時~23時)



深夜・早朝(23時~8時)



知らないと損する

得 TIPS

ここでは、ダイヤルアップのユーザーが割引サービスを使うときに知っている役に立つかもしれない便利なTipsを紹介しよう。また、ここでは直接触れてはいないが、アナログ接続のユーザーはISDNの導入を考えてみるのもいいだろう。工事費など若干の負担が必要になるが、通信が速くなりデータあたりのコストが下がることになる。そして何より快適なデジタル通信ができるようになるのだ。



TIPS
得

割引サービスの複数利用

NTTの割引サービスは、最大2つまで組み合わせて利用できる。組み合わせの可否は以下の表のとおり。まずテレホーダイを利用するかどうかで、テレホーダイ適用時間外での市内通話利用はタイムプラス、隣接区域への市外通話はエリアプラス、それ以外の市外通話はテレチョイスかテレワイズという選択肢がある。表を見ると、テレホーダイとテレジョーズを一緒に契約できないのがわかる。また、市内通話割引サービスのタイムプラスと隣接区域への市外通話割引サービスのエリアプラス、市外通話の発信局番を指定するテレチョイスと市外通話割引サービスのテレワイズの併用もできない。ISDNの割引サービスも同様だ。記事本文とこの表を参照して、自分に合ったサービスを利用しよう。なお、今回の記事ではこれらの組み合わせも考慮した料金計算を行った。

アナログにおける組み合わせの可否

	テレホーダイ	タイムプラス	エリアプラス	テレチョイス	テレワイズ	テレジョーズ
テレホーダイ						x
タイムプラス			x			x
エリアプラス		x				x
テレチョイス					x	x
テレワイズ				x		x
テレジョーズ	x	x	x	x	x	

ISDNにおける組み合わせの可否

	INSテレホーダイ	INSタイムプラス	INSエリアプラス	INSテレチョイス
INSテレホーダイ				
INSタイムプラス			x	
INSエリアプラス		x		
INSテレチョイス				

TIPS
得

電力系通信事業者のISDNサービス

東京通信ネットワーク (TTNet) などの電力会社系の通信事業者もISDNサービスを提供しているをご存知だろうか。NTTのINSネット64に相当するサービスの場合、NTTでISDN回線を新規契約する場合の契約料800円と施設設置負担金72,000円は、電力系通信事業者では無料だ。ただし、ビルの構造や地域によっては設備が整っていないため余計に費用がかかる場合もある。工事費はNTTでは11,800円、TTNetでは16,500

円。月額料金で見ると、NTTが5,390円、TTNetは6,365円(区域外の場合は別途)。利用料は3分10円のNTTに対し、TTNetは3分7円(同一区域内平日昼間料金)だが、NTTのタイムプラス(平日昼間5分10

円)を利用するとNTTのほうが安くなる。ダイヤルアップで接続の場合、テレホーダイやタイムプラスのような割引サービスがない電力系事業者のISDNサービスの利用価値は低いだろう。

電力系通信事業者一覧

事業者名	ISDNサービス	問い合わせ先	URL
北海道総合通信網(株)		011-341-3200	http://www.hotnet.co.jp/
東北インテリジェント通信(株)		022-799-4201	http://www.tohknet.ne.jp/
東京通信ネットワーク(株)		0120-719-019	http://www.ttnet.co.jp/
中部テレコミュニケーション(株)		052-740-8000	http://www.ctc.co.jp/
北陸通信ネットワーク(株)	一部地域(拡大中)	076-209-5501	http://www.htnet.co.jp/
大阪メディアポート(株)		0120-509-450	http://www.omp.co.jp/
中国通信ネットワーク(株)	法人のみ	082-523-8527	http://www.ctnet.co.jp/
(株)四国情報通信ネットワーク		087-887-2404	http://www.stnet.co.jp/
九州通信ネットワーク(株)	法人のみ	092-981-7576	http://www.qtnet.co.jp/
沖縄通信ネットワーク(株)	未定	098-866-7727	http://www.powernets.co.jp/ot_home.htm

ISDNサービスの可否は99年1月31日現在のもの





TIPS
得

地域限定のサービスをチェック!

当初は首都圏を対象としてスタートしたタイムプラスがサービスエリアを全国に拡大したことで、今回の記事で紹介するNTTの割引サービスはすべて全国を対象のものになった。しかし、NTT以外の通信会社が提供するサービスには、依然として地域を限定したサービスもある。ここでは、そのような「地域限定」サービスをチェックしてみたい。

TTNetの「東京電話」はアナログの市内通話が平日昼間(8時~19時)なら9円/3分になるサービスだ。利用できる地域はTTNetサービスエリア内(栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、

東京、神奈川、山梨、静岡の富士川以東、離島は除く)に限られる。申し込みは必要だが加入料・基本料ともに無料で、無償で貸与されるアダプターを使うことになる(0081をダイヤルしてもOK)。ただし「東京電話」を使いながらNTTの割引サービスを利用するには、アダプターを取り外すか、0000を最初にダイヤルして利用しなければならない。

東京電話に関する問い合わせ

TTNet: 0120-719-019

URL <http://www.ttnet.co.jp/>



電話料金の割引とは直接関係がないが、ヘビーユーザーには「ケーブルテレビインターネット」(CATVインターネット)という選択肢もある。ISDNが2チャンネル使っても128Kbpsなのに比べ、CATVインターネットの場合は数Mbpsの速度が実現できることもある(通信速度やバックボーンの容量はCATV会社によって異なる)。CATVの回線を使うために電話料金は発生しないが、CATV会社に利用料金を払う必要がある。料金はCATV会社によってかなり異なるが、すでにCATV放送の契約がある場合には比較的安い追加料金でCATVインターネットの契約ができることが多い。インターネットの課金方法は固定と従量の両方があるが、常時接続を心置きなく使うには固定料金のほうが使いやすいだろう。テレホーダイの適用時間(23時~8時)はもちろん、適用時間外も長時間使う場合は、料金を確認のうえでCATVインターネットを使うというのもいいだろう(インターネットサービスを提供しているCATV会社の詳細は406ページ参照)。

TIPS
得

KDD「1円電話」の裏ワザ

KDDの「1円電話」は深夜・早朝(23時~8時)なら通話距離に関係なく1円/6秒で通話ができるサービスだ。相手の電話番号の前に「001」をダイヤルするだけで利用でき、月額基本料や申し込み、工事、アダプターも必要ない。このサービスは1円ごとの課金(深夜・早朝)のため、通話料金をNTTの最低課金単位である10円未満に抑えることもできる。深夜・早朝の場合は54秒までなら10円未満になる。この「1円電話」、使い方によっては便利かもしれない。「KDDがけどくパック」を申し込みれば、毎月300円以上の利用で10%割引になる。

1円電話に関する問い合わせ

KDD: 0070-712 / URL <http://www.kdd.co.jp/>

「1円電話」の通話料が10円未満になる限界

距離	昼間 平日8時~19時	夜間・休日 平日19時~23時、土日祝8時~23時	深夜・早朝 毎日23時~8時
~60km	42秒(1.3円/6秒)	42秒(1.3円/6秒)	54秒(1円/6秒)
~100km	30秒(1.8円/6秒)		

1円未満の金額は、通話ごとに四捨五入、別途消費税が必要



TIPS
得

クレジットカードの市外通話割引

市外通話の電話料金が割引になるサービスを提供しているクレジットカードもある。通話料金に応じて16~20%程度の割引が受けられるもので、その仕組みはカード会社を通じて「大口割引」を利用しているものだ。カード会社によって割引率は若干異

なるが、セゾンカードやNTTグループカードは年会費やカード発行手数料が無料なのでいいだろう。ただし、このサービスを申し込むと、これまで本編で紹介してきた「テレホーダイ」などのNTTの割引サービスが利用できなくなるので注意が必要だ。

サービスを提供する主なカード

	問い合わせ	URL
NTTグループカード	0120-084-789	http://www.nttl.co.jp/ttop.html
セゾン	03-5996-1111	http://www.saisoncard.co.jp/
JCB	0422-76-1700	http://www.jcb.co.jp/
UC	0120-888-860	http://www.uccard.co.jp/
住友クレジットサービス	03-3459-8686	http://www.sumitomovisa.co.jp/
ニコス	0120-030-060	http://www.nicos.co.jp/
オリコ	0492-71-3330	http://www.orico.co.jp/

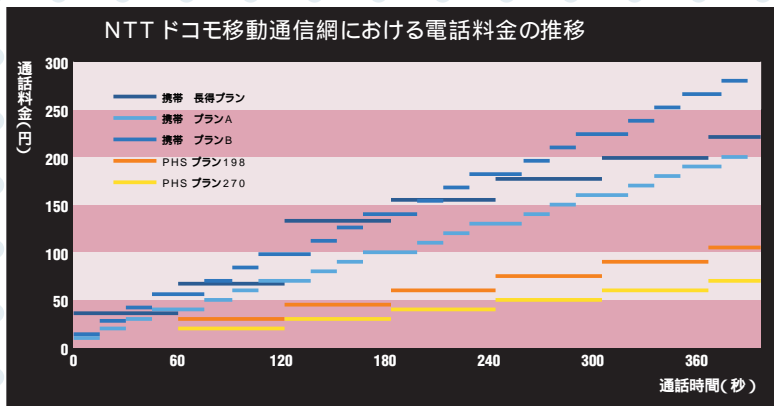


移動体通信の 通信料を読み解け!

基本料金と通話料金の関係がポイント

【 公衆回線に比べて
選択肢が多い 】

移動体通信の電話料金も基本的には一定時間ごとに料金が上がっていくものだが、単位時間が短く（10数秒から60秒程度）、時間帯が細かく分割されている。また、通話かデータ通信かで料金も違う。また、基本契約（プラン）が複数あり、基本料金は安いのが通話料が高いもの、逆に基本料金は高いものの通話先によらず全国一律料金で通話が可能なものなどがある。このほか、基本料金に一定額の通話料金が含まれているプランなどがある。



【 新サービスも
続々と登場! 】

同一地域に複数の事業者があるため、競争が激しく、移動体通信は急速に利用コストが下がってきた。また、データ通信は今後も伸びが期待できる分野なので、音声通話以上にこれから競争が激化する可能性も高い。

契約者数などでは携帯電話のほうが優勢だが、技術的には高速通信ができるPHSのほうがデータ通信には向いている。NTTドコモは携帯電話とPHSの両方の事業を行っているため、携帯電話とPHS（もしくはもう1台の携帯）を契約すると基本料金を割引くファミリー割引を開始。PHSでも2台目以降を割り引きするサービス（アステルなど）がある。

PHSでは現在64Kbpsのデータ通信が試験段階にあり、一部の地域で利用が開始されている（NTTドコモ、アステル東京）。

また、PHSのハンドオーバー（通信中移動）が強化される。従来、移動中は通信が切れてしまっていたが、機能強化により、時速

多くの場合、契約地域以外でも同じグループに属する事業者の設備を使って通話を行う「ローミング」契約が可能だ。

公衆回線でいう「市内」（もっとも通話料の安い通話先地域）は、営業エリア内もしくは都道府県単位であることが多く、公衆回線に比べるとその範囲は広い。また、通話相手はNTT公衆回線が最も安く、次いで同一事業者の移動体端末で、異種の移動体端末（携帯電話とPHS間）が最も高くなる。

40km程度であれば交換局が切り替わっても連続して通信が行えるようになった。これは2月以降、基地局の対応ができ次第、順次可能になる。

携帯電話では、NTTドコモが時間ではなく従量制のインターネット接続のためのサービス「iモード」を開始する。これは専用端末が必要だが、通信料金が時間ではなく、データ量に応じて計算されるものだ。電子メールは直接インターネットに送られるものの、ウェブアクセスはセンター経由で、一定サイズ以下の場合のみ利用できる。

また、携帯電話事業者のメッセージサービスでは、インターネットと電子メールがやりとりできるようになり、携帯電話のみでメールが利用できる。もともとPHSでは、PHS端末間で文字メッセージのやりとりができる機能が提供されていたが、これらもインターネットメールとのやりとりができるようになってきた。また、この文字通信機能のみに限定した「文字電話」（DDIポケット）も開始されている。

料金だけでなく、自分に合ったサービスを提供してくれるのはどの会社なのかをしっかりと見極める必要がある。





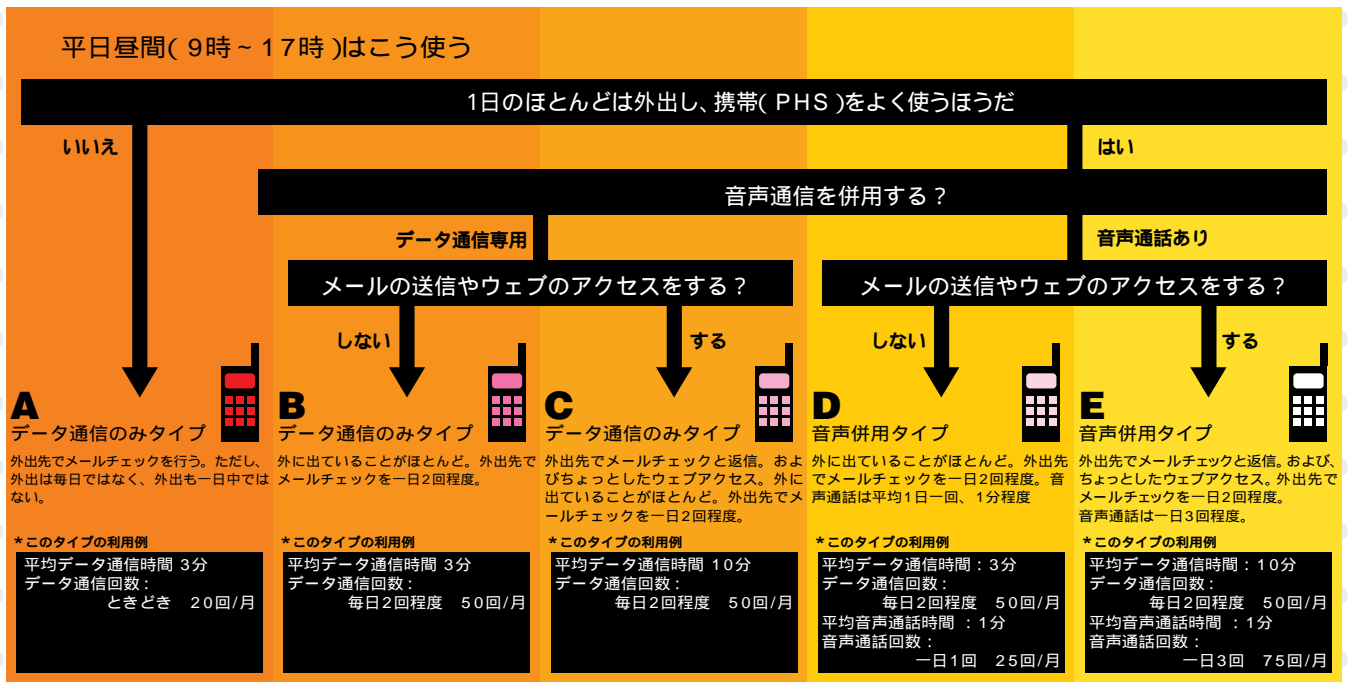
利用パターンで サービスを決め打ち!

あなたのモバイル度をチェック

【細かい計算は面倒だ】

外出先で使うことを想定し、平日の昼間（午前9時～午後5時）にインターネット接続をする場合の利用パターンをチャートで

判定できるようにした。なお、Aは「データ通信のみ」とあるが、音声通話を少し行う場合も含んでいる。



前提条件

今回、移動体通信の電話料金を比較するうえで以下の利用形態を想定し、料金計算を行った。

通信は平日昼間の9時から17時に行う。

この時間帯で最も長い料金時間帯のものを採用。

結果的に違うプランが同じ料金になったときには、基本料金の安いものを選択。

接続先限定プランはデータ通信にのみ適用。

加入期間は最初の半年間以内を想定し、長期利用割引は適用なし。ただし、年間契約で基本料の安くなるものには加入（有料のものを含め）、このため、初期費用についてはばらつきがある。

インターネット接続はパソコンを使ってインターネットにアクセスでき、さらにプロバイダー機能を含むもの（ただし、別途契約などが必要なものを除き）、最も安価なものを選択した（特定のプロバイダーで通話料金が安くなるものも含まれる。たとえばセラーグループのDION接続など）。

電子メールは基本サービスとしてインターネット側と電子メールの送受信が可能で、携帯電話だけで利用できるもの。

携帯電話を徹底攻略!

利用エリアごとに最適プランが異なる点に注意

お得なプランを表から選ぶ

下の表は、205ページのチャートをもとにした携帯電話における最適プラン一覧表で、利用料金が最も安くなるプランとサービスをキャリアとエリアごとに算出した結果

だ。なお料金は205ページの例をもとにしているため、実際の利用とは異なる場合がある。

表の見方は簡単だ。横軸で自分のタイプ(A~E)を選んで、縦軸で使っている携帯電話のキャリアとエリアを選ぼう。選択した縦軸と横軸が交差するポイントが、自分

が選んだタイプで一番お得なプランとサービスだ。なお、表中に現れない条件(接続先限定など)もあるので、下の表は事業者間の比較ではなく、あくまでも自分が利用しているキャリアとエリアでどのプランの組み合わせが安くなるのかを判断するものだという点を理解していただきたい。

携帯電話プラン比較

キャリア	エリア	データのみ		
		A	B	C
NTTドコモ800MHz	NTT北海道移動通信網	おはなしプラスL 6420円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 9235円/月	長得プラン+ドンドン1500 17850円/月
	NTT東北移動通信網	プランB+ゆうゆうコール 6452円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 9280円/月	長得プラン+ドンドン1500 16850円/月
	NTT東海移動通信網	おはなしプラスM 5700円/月	おはなしプラスL+ゆうゆうコール 8375円/月	長得プラン+ドンドン1500 14750円/月
	NTT移動通信網	おはなしプラスL 5900円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 8785円/月	長得プラン+ドンドン1500 15250円/月
	NTT北陸移動通信網	おはなしプラスM 5800円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 8245円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 14230円/月
	NTT関西移動通信網	おはなしプラスL 5900円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 8605円/月	長得プラン+ドンドン1500 16100円/月
	NTT中国移動通信網	おはなしプラスM+ゆうゆうコール 6060円/月	長得プラン+ゆうゆうコール 8830円/月	長得プラン+ドンドン1500 15650円/月
	NTT四国移動通信網	おはなしプラスM 5500円/月	おはなしプラスL+ゆうゆうコール 8420円/月	長得プラン+ドンドン1500 16100円/月
	NTT九州移動通信網	おはなしプラスL 5640円/月	ゆうゆうコール+ベーシックプラン 8830円/月	ベーシックプラン+ドンドン1500 18100円/月
NTTドコモ1.5GHz	NTT移動通信網	プランA+データレート 4300円/月	ゆうゆうコール+プランA+データレート 5605円/月	長得プラン+ドンドン700 8400円/月
	NTT東海移動通信網	プランA+データレート 4300円/月	ゆうゆうコール+プランA+データレート 5605円/月	長得プラン+ドンドン700 8400円/月
	NTT関西移動通信網	プランA+データレート 4300円/月	ゆうゆうコール+プランA+データレート 5605円/月	長得プラン+ドンドン700 8400円/月
IDO	関東圏	コミコミプランS 5300円/月	おてごろプラン+Dレート 6850円/月	おてごろプラン+Dレート 12100円/月
ツーカー	デジタルツーカー-北海道	年契約引+しゃべろーパック30 4500円/月	年契約引+しゃべろーパック80 7400円/月	年契約引+しゃべろーパック120 14700円/月
	デジタルツーカー-東北	まるごとークL 4900円/月	まるごとークH 7300円/月	まるごとークスーパー 15900円/月
	ツーカーセルラー-東京	しゃべろープラン+サイバーレート 3800円/月	しゃべろープラン+サイバーレート 5400円/月	しゃべろービッグプラン+サイバーレート 10200円/月
	ツーカーセルラー-東海	ホットライン5+フリートークS+サイバーレート+イヤー 4460円/月	ホットライン5+フリートークS+サイバーレート+イヤー 5900円/月	ホットライン5+フリートークスーパー+サイバーレート+イヤー 11100円/月
	デジタルツーカー-北陸	年々契約+フリーパックL 4100円/月	年々契約+フリーパックH 6550円/月	年々契約+フリーパックH 14800円/月
	ツーカーホン-関西	どんとく+フリートークS+サイバーレート 3590円/月	どんとく+フリートークL+サイバーレート 4920円/月	どんとく+フリートークL+サイバーレート 8920円/月
	デジタルツーカー-中国	年間契約+ついでTel話40+ギガレート 3496円/月	年間契約+ついでTel話40+ギガレート 4596円/月	年間契約+ついでTel話100+ギガレート 8152円/月
	デジタルツーカー-四国	年間契約+ついでTel話40+ギガレート 2200円/月	年間契約+ついでTel話40+ギガレート 3300円/月	年間契約+ついでTel話100+ギガレート 6500円/月
	デジタルツーカー-九州	年間契約割引+ついでTel話40 4220円/月	年間契約割引+ついでTel話100 6630円/月	年間契約割引+ついでTel話100 16530円/月
J-PHONE	東京デジタルホン	ローコールプラン+アクセスレート 4580円/月	ローコールプラン+アクセスレート 6200円/月	デイトタイムコールライト+アクセスレート 9900円/月
	東海デジタルホン	ローコールプラン+アクセスレート 4580円/月	ローコールプラン+アクセスレート 6200円/月	デイトタイムコール+アクセスレート 9900円/月
	関西デジタルホン	ローコールプラン+アクセスレート 4480円/月	ローコールプラン+アクセスレート 6100円/月	ビジネスプラン+アクセスレート 9600円/月
セルラーグループ (デジタル)	北海道セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3800円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5100円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	東北セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3900円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5200円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	北陸セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3900円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5200円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	関西セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3900円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5200円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	中国セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3800円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5100円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8600円/月
	四国セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3800円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5100円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	九州セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3800円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5100円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月
	沖縄セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3800円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5100円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8600円/月
	セルラーグループ (CDMA One)	関西セルラー-電話	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 4000円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5300円/月
九州セルラー-電話		コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3900円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5200円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 9000円/月
沖縄セルラー-電話		コミコミコールS+セルラーモバイルレート 3900円/月	コミコミコールS+セルラーモバイルレート 5200円/月	コミコミコールL+セルラーモバイルレート 8800円/月

上段: 料金プランとサービス
下段: 想定通信パターンによる1か月の予想料金(基本料金+通話料)



携帯電話は同一グループでもエリアによって料金体系が微妙に異なっている。つまりNTTドコモの携帯電話でも、NTT移動通信網（関東）とNTT北海道移動通信網（北海道）では料金が違い、一番お得なプランやサービスも異なる場合があるのだ。

NTTドコモではエリアごとにそれほど料金差がなく、結果として選ばれたプランやサービスもそれほど大きな差はない。ところが、ツーカーグループではエリアによってプランやサービスが大きく異なっているのが表からもよくわかる。

携帯電話のデータ通信の規格として今後注目したいのがセルラーグループの「CDMA One」だ。現在、携帯電話のデータ通信時の速度は9600bpsのものがほとんどだが、CDMA Oneでは14.4Kbpsの通信を実現している。このCDMA Oneとは、香港をはじめアメリカ、カナダ、韓国、インドなどで商用化されている携帯電話の通信規格で、主な特徴として、きわめて肉声に近く、固定電話並みの音声品質を持つ、バックグラウンドノイズを提言する特性があり、騒がしい場所からでもクリアな音

質が保てる、ソフトハンドオーバーシステムにより移動中の通話でも切れにくい、などが挙げられる。99年度中には64Kbps（バケット）データ通信の実現を目指して、サービスエリアも順次拡大中だ。

データ通信の分野ではPHSに遅れをとった感がある携帯電話だが、CDMAなどの次世代通信技術を武器に、今後の巻き返しを狙う。

音声併用		プロバイダー契約なしの人		URL		
D	E	インターネットアクセスのみ	メールのみ			
長得プラン+ドンドン700 9800円/月	長得プラン+ドンドン2500 19700円/月	mopera 東京までの通話料	iモード 300円/月、 0.3円/128バイト (10円メール)	http://www.nttdocomo-h.co.jp/		
長得プラン+ドンドン700 9900円/月	長得プラン+ドンドン2500 19600円/月			http://www.docomo-tohoku.co.jp/		
おはなしプラスL+ゆうゆうコール 9350円/月	長得プラン+ドンドン1500 17375円/月			http://www.docomo-tokai.co.jp/		
長得プラン+ドンドン700 9600円/月	長得プラン+ドンドン2500 19600円/月			http://www.nttdocomo.co.jp/		
長得プラン+ゆうゆうコール 8995円/月	長得プラン+ドンドン1500 15850円/月			http://www.docomo-hokuriku.co.jp/		
長得プラン+ゆうゆうコール 9355円/月	長得プラン+ドンドン1500 18350円/月			http://www.docomo-kansai.co.jp/		
長得プラン+ドンドン700 9600円/月	長得プラン+ドンドン2500 18350円/月			http://www.docomo-chugoku.co.jp/		
長得プラン+ゆうゆうコール 9355円/月	長得プラン+ドンドン1500 18350円/月			http://www.docomo-shikoku.co.jp/		
ゆうゆうコール+ベーシックプラン 9580円/月	ベーシックプラン+どんどん2500 19600円/月			http://www.docomokyusyu.co.jp/		
ゆうゆうコール+プランA+データレート 6355円/月	長得プラン+ドンドン700 10700円/月			http://www.nttdocomo.co.jp/		
ゆうゆうコール+プランA+データレート 6355円/月	長得プラン+ドンドン700 10700円/月			http://www.docomo-tokai.co.jp/		
ゆうゆうコール+プランA+データレート 6355円/月	長得プラン+ドンドン700 10700円/月			http://www.docomo-kansai.co.jp/		
おてごろプラン+Dレート 7850円/月	おてごろプラン+Dレート 15100円/月			DA RE DE MOインターネット 10円/1分	http://www1.medialgalaxy.co.jp/ido/	
年契約割引+しゃべろーパック80 8150円/月	年契約割引+しゃべろーパック120 16200円/月	x	SkyWarp 500円/月、送5円/1通	http://www.iacnet.or.jp/digitalTU-KA/		
まるごとトークH 8050円/月	まるごとトークスーパー 17775円/月	x	SkyWarp 500円/月、送5円/1通	http://www.dt-t.co.jp/		
しゃべろービッグプラン+サイバーレート 5700円/月	エグゼクティブプラン+サイバーレート 11925円/月	x	SkyMessage 800円/月	http://www.tu-ka.co.jp/		
ホットラインS+フリートークS+サイバーレート+イヤホン 5900円/月	ホットラインS+フリートークスーパー+サイバーレート+イヤホン 11100円/月	x	SkyMessage 500円/月、送5円/1通	http://www.cjnr.or.jp/TU-KA_C/		
年々契約+フリーパックH 7175円/月	年々契約+フリーパックH 16581円/月	x	SkyWarp 500円/月、送5円/1通	http://www.dth.co.jp/		
どんとく+フリートークL+サイバーレート 5470円/月	どんとく+フリートークスーパー+サイバーレート 11000円/月	インターネット接続サービス 通話料のみ	SkyMessage 100円/月、送7円/1通	http://www.tu-ka-kansai.co.jp/		
年間契約+ついTel話100+ギガレート 5152円/月	年間契約+ついTel話100+ギガレート 10402円/月	x	SkyMessage 500円/月、送5円/1通	http://www.dt-chugoku.co.jp/		
年間契約+ついTel話100+ギガレート 3500円/月	年間契約+ついTel話100+ギガレート 8750円/月	x	SkyWarp 500円/月、送5円/1通	-		
年間契約割引+ついTel100 7380円/月	年間契約割引+ついTel100 18668円/月	x	SkyWarp 500円/月、送5円/1通	http://www.dtq.co.jp/		
トークバックライト+アクセスレート 6900円/月	デイトムコールライト+アクセスレート 12150円/月	x	SkyWalker 800円/月、送5円/1通	http://www.tdp.co.jp/		
トークバック40+アクセスレート 6500円/月	デイトムコール+アクセスレート 12150円/月	x	SkyWalker 800円/月、送5円/1通	http://www.cdp.co.jp/		
ビジネスプラン+アクセスレート 6600円/月	ビジネスプラン+アクセスレート 11100円/月	x	SkyWalker 無料、送10円/1通	http://www.kdp.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月	セルラー モバイルレート (DION接続) 1分/15円-	EV-Mail 400円/月、 別途通話料が必要 (音声読み出し)	http://www.hokkaido-cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月			http://www.tohoku-cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月			http://www.hokuriku-cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月			http://www.kansai-cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5600円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 10850円/月			http://www10.medialgalaxy.co.jp/cct/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月			http://www.shikoku-cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月			http://www.gct.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5600円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 10850円/月			http://www.okinawa.cellular.co.jp/		
コミココールL+セルラーモバイルレート 5900円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11150円/月			x	-	http://www.kansai-cellular.co.jp/
コミココールL+セルラーモバイルレート 6000円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11250円/月			x	-	http://www.gct.co.jp/
コミココールL+セルラーモバイルレート 5800円/月	コミココールL+セルラーモバイルレート 11050円/月	x	-	http://www.okinawa.cellular.co.jp/		

：長期利用割引の対象になるプランの組み合わせ
 -：プランは標準のみ
 x：対応サービスなし

PHSを徹底攻略!

データ通信はPHSが安価で快適

お得なプランを表から選ぶ

それでは、PHSのプランとサービスをチェックしてみよう。ここでは205ページのチャートの結果をもとに、自分が使っているPHSのキャリアとエリアごとに、一番安くなるプランとサービスの組み合わせを表にし

た。チャートで判断した自分のタイプを表の横軸で選び、自分のPHSのキャリアとエリアを縦軸で選べば、その交差するポイントが一番お得なサービスを示している。

PHSではNTTドコモとDDIポケットが全国で同じサービスを提供しているため、これらのPHSを使っている場合はどのエリアでも料金が変わらない。エリアごとに料金

が異なるのがアステルで、表を見てわかるようにエリアごとに割引プランやサービスが異なっている。

NTTドコモの場合はデータプラスの利用価値が高く、Eタイプ以外はデータプラスを選択すればいいだろう。

また、接続先を限定したサービスのほうが安くなるのは、どの事業者についても言

携帯電話プラン比較

キャリア	エリア	データのみ			
		A	B	C	
NTTドコモ(PHS)	全国	データプラス 1980円/月	データプラス 2480円/月	データプラス 5980円/月	
アステル	北海道	標準コース 3000円/月	標準コース 3900円/月	標準コース 7400円/月	
	東北	- 3000円/月	- 3900円/月	- 7400円/月	
	東京	エントリープラン 1950円/月	3か所自動割引+エントリープラン 2830円/月	3か所自動割引+エントリープラン 5630円/月	
	中部	きめトーク 1580円/月	きめトーク 2480円/月	きめトーク 5980円/月	
	北陸	- 3400円/月	- 4600円/月	- 8100円/月	
	関西	きめトーク 1580円/月	きめトーク 2480円/月	きめトーク 5980円/月	
	中国	デイトークプラン 2580円/月	デイトークプラン 3480円/月	デイトークプラン 6980円/月	
	四国	- 3000円/月	- 3900円/月	- 7400円/月	
	九州	デイトークプラン 2580円/月	デイトークプラン 3480円/月	デイトークプラン 6980円/月	
	沖縄	デイトークプラン 2580円/月	デイトークプラン 3480円/月	デイトークプラン 6980円/月	
	DDIポケット	全国	安心だフォン 1580円/月	安心だフォン 2480円/月	安心だフォン 5980円/月

上段：料金プランとサービス
下段：想定通信パターンによる1か月の予想料金(基本料金+通話料)



回線の特性を知って 割引サービスを利用しよう

さて、今回の比較では、単純に接続時間を使ったが、たとえばISDNとアナログでは同一データに対する接続で転送時間が違ってくる。つまり、あるデータを受け取るまでの時間を考えるとISDN(携帯との比較ではPHS)のほうが時間が短くなるため、(特に短時間の通信では)通信料金が違ってくる可能性がある。アナログでも最近では高速モデムが登場しているが、回線の混雑状況などにより、最高速度で通信できないことが多い。それに対してISDNで



えることだ。さらに、PHSは「データ通信のみに使う」と割り切ったほうがランニングコストは安くなるだろう。特に、すでに携帯電話を持っている場合は、通信速度を考えるとPHSのほうがデータ通信には有利で、接続時間も短縮できる。つまり、「データ通信専用」で「接続先限定」のプランを選ぶといいだろう。ちなみにDDIポケットの「安心だフォン」を使ったタイプAの1か月の料金は1,580円となる。携帯電話だけで通信をするよりも、データ通信専用のPHSを組み合わせる使うほうが、毎月の通

信料金を削減できる可能性はある。

データ通信との相性がいいのもPHSの特徴だ。現在、広く使われているPIAFSは32Kbpsで、携帯電話の9600bpsよりも3倍以上の通信速度を持っている。さらに、NTTドコモやアステルが一部でサービスを開始した64Kbps通信なら携帯電話の約7倍の速度になり、ISDNにも匹敵する環境がモバイルで実現することになる。

下の表の料金は205ページのタイプごとの例をもとに計算したもので、実際の利用時に料金が異なる場合もある。また、

この表は自分が利用している事業者においてどのプランとサービスが最適化を示しており、事業者間の比較を行うものではない。

音声併用		プロバイダー契約なしの人		URL
D	E	インターネットアクセスのみ	メールのみ	
データプラス 3480円/月	プラン270 + 32Kデータ料金プランF5 8100円/月	ネットサーフィン ^{*1} 全国一律15円/分	パルディオEメール ^{*1} 全国一律7円/10秒	http://www.nttdocomo.co.jp/
標準コース 4400円/月	標準コース 8900円/月	標準+らくらくネット サービスエリア内10円/45秒	x	http://www.astelhokkaido.co.jp/
-	-	x	x	http://www.tinet-i.ne.jp/astel/
4400円/月	8900円/月	-	-	-
3か所自動割引+エントリープラン 3580円/月	デイトークプラン 7760円/月	x	x	http://www.astel.co.jp/tokyo/
標準プラン 4600円/月	標準プラン 9100円/月	-	-	-
-	-	らくらくネット サービスエリア内10円/45秒	x	http://www.astelchubu.co.jp/
5100円/月	9600円/月	らくらくネット サービスエリア内10円/45秒	x	http://www.fitweb.or.jp/astel/
デイ&ミッドナイトコース 3980円/月	デイ&ミッドナイトコース 8480円/月	サービスエリア内10円/45秒	-	http://www.astelkansai.co.jp/
デイトークプラン 3980円/月	デイトークプラン 8480円/月	めっちゃE-Mail ^{*1} プラン基本料金+300円/月13円/分	x	http://www.cisnet.or.jp/home/astel/
-	-	x	x	http://www.netwave.or.jp/astel/
4400円/月	8900円/月	らくらくネット サービスエリア内10円/45秒	x	-
デイトークプラン 3980円/月	デイトークプラン 8480円/月	x	x	http://www1.mediagalaxy.co.jp/astel-kyushu/
デイトークプラン 3980円/月	デイトークプラン 8480円/月	-	-	-
お気軽コース 3600円/月	昼得コース 8480円/月	x	x	-
-	-	DIONモバイルバック 15円/分	PメールDX 10円/30秒	http://www.j-plaza.or.jp/ddi-pocket/

*: 契約プランに関わらず料金一定。また10円メールも利用可能

: 長期利用割引の対象プラン、サービス

-: プランは標準のみ

x: 対応サービスなし

は2チャンネル同時に使えば128Kbpsでの通信もできるようになる。こうして通信速度が速くなるということは、データ単価が安くなることを意味する。

とはいえ、アナログでも各種のサービスを使いこなせば電話料金は節約できる。サービスを使いこなすとは単に契約するだけでなく、利用パターンを見極めて、加入するかしないかを含めて検討することだ。たとえば、インターネットをやるならテレホーダイを契約するという話はよく聞くが、テレホーダイに加入しても得にならない利用時間というのがあるわけで、自分のパターンを知らずにテレホーダイを契約しても、結果的には損するということにもなりかねないのだ。携帯電話とPHSについても、月間の通信料金を削減するため

には、利用パターンの把握と他事業者との比較が必要だろう。すでに携帯電話を長期にわたって使っているのなら変更は難しいが、データ通信専用（発信専用）に使うためのPHSなら安い事業者に変更できる。契約者数が伸び悩むPHSだが、データ通信では有利な点は多いので、携帯電話との組み合わせを含めて検討する必要がある。結果的にこのほうが利用料金の節約につながる場合もあるだろう。

不況の風が厳しい昨今、通信料金を削減して家計の負担を少しでも軽くすることを真剣に考えている人も多いだろう。この記事は、そのような人たちの強い味方となるはずだ。さあ、今すぐ自分にベストな割引サービスに申し込もう！



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp